研　究　結　果　報　告　書

モンゴル国におけるブリヤート・ディアスポラ：日本研究の視点から

所属：ドルノド県ヘルレン・ソム第１２学校
役職：上級教諭
氏名：ドガル・バイガルサイハン

本研究は、モンゴル国とロシア、中国の内モンゴル自治区で実施する文献調査と聞き取り調査により得られる情報に基づいて、アジア歴史資料センターの日本語の資料も参考し、20 世紀前半、戦争をはさむ激動のモンゴルを生きたブリヤート人の歴史と社会を考察し、検討することを目的とした。

本研究は、文献調査と聞き取り調査により、17 世紀以降北東アジア地域におけるブリヤート・モンゴル人の移住の歴史、とりわけ 20 世紀前半、脱国家のブリヤート人が歩んだ「越境」の歴史を探り、ブリヤート・モンゴル人はどのように日本・満洲国を介して、社会的・文化的空間を構築してきたかを多角的に考察した。またブリヤート・モンゴル人は日本人とどのような関係持っていたか、彼らにとって、 満洲国の遺産は何であったか、「境界」と「越境」はどのような意義を持つのかをも検討し、モンゴル国におけるブリヤート・ディアスポラ（離散民族）の現在に至るまでの歴史の再構成を試みた。本研究によって、1937 年にソ連、モンゴル人民共和国でおこなった粛清運動で粛清された 10,000 人をも超えるブリヤート・モンゴル人、第二次世界大戦後に「日本のスパイ」・「反革命分子」・「裏切者」などのでっち上げられた罪名で糾弾された 13,000 人ほどのブリヤート・モンゴル人のデータ（年齢、罪名など）をある程度整理できた。また、本研究ではボグド・ハーン政権に加えたブリヤート・モンゴル人ザムスライノフとエルデンバトハンの年譜を埋めることができ、さらに 1939 年のハルハ河・ノモンハン戦争に参加したモンゴルに移住した 15 名のブリヤート・モンゴル人将兵と看護婦の同戦争で果たした役割（その多くは野戦病院で働かせた）と行方（戦争後その多くはダシバルバル郡に移住された）を明らかにしたことは、重要な発見であったといえよう。第二次世界大戦終結後、満洲国を生きたブリヤート人の多くはロシア、中国、モンゴルで糾弾、迫害された。こうした政治的弾圧をうけたブリヤート人の戦後の運命の異同点は何であるか、彼らが置かれた政治的、社会的メカニズムはどういうものであるか、ブリヤート人にとって、満洲国の遺産は何であったかについては、今後の研究課題にしたい。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表　（題名・発表者名・会議名・日時・場所等）

1.「20世紀初期フロンボイルのバルガ地域に移住したブリヤート人について」・ドガル・バイガルサイハン・「バルグジン2018」国際学会・2018年8月4～6日・モンゴル国ドルノド県チョイバルサン市

2.「モンゴル国教育省の設立におけるブリヤート人の貢献」・ドガル・バイガルサイハン・国際シンポジウム「ディアスポラとしてのブリヤート・モンゴル人」・2018年9月22日・モンゴル国ドルノド大学会議室

3.「ブリヤート・ディアスポラ」・ドガル・バイガルサイハン・セミナー「モンゴル国におけるブリヤート・ディアスポラ」・2019年4月30日・モンゴル国ドルノド大学会議室

論文　（題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等）

書籍　（題名・著者名・出版社・発行時期等）

1.『シネヘー・ブリヤートモンゴル人略史』（モンゴル語）・ドガル・バイガルサイハン・チョイバルサン市・2019年6月